KMC TOPICS トピックス

出前講座

地域のみなさまに医療や健康に関する講座をお届けします

京都医療センターでは、「この街の医療をささえる病院」として、当院の医師・職員が皆さまの地域に出向き、医療や健康に関する「知ってよかった！」をお伝えする講座を行っています。現在、15以上の診療科による、約50の講座からお選びいただけます。

ピックアップ講座

講座は全て無料　約50種類充実のラインナップ

- 胸やけはありませんか？ 逆流性食道炎、食道・胃のおはなし　外 科
- いびきや眠気が気になったら、睡眠時無呼吸症候群にご注意　呼吸器内科
- がんより多い心不全：むくみ、息切れ、体重増加を認めたら　循環器内科
- まぶたが下がって見えにくい眼瞼下垂の治療　形成外科
- 乳がんについて知ろう　乳腺外科
- 無痛分娩ってほんとにいいの？　産婦人科　麻酔科
- 骨粗鬆症のおはなし　内分泌内科

お申し込みについて

対象エリア	京都市・京都府南部・枚方市など近隣地域
派遣講師	医師・職員
会場	開催者様のご指定会場
開催日時	土日祝も含めて可能な限り調整いたします
講演時間	1時間以内（質疑応答含む）
派遣料	無料 （交通費など一切不要です。ただし、会場準備にかかる経費等はご負担の程お願いいたします。）

講師派遣に関するお申込み条件



などが主催する会 20名以上で開催可能です！

出前講座の詳細 お申し込みはこちらから

実施実績

- 地域住民様向け「外科：ロボットの手術ってどんな手術?」
- 公立小学校教職員様向け「救命センターICU：心肺蘇生法やAEDについて」
- 婦人会向け「内分泌代謝内科：食塩と高血圧のはなし」
- 町内会向け「薬剤部：お薬の話」
- 私立保育園保育師様向け「小児科：小児アレルギーについて」

等多数実施

FM845「カラダ元気」出演

毎月最終火曜日 14:05～14:30放送の京都リビングエフエム FM845「カラダ元気」コーナーに、当院の医師や職員が出演しています。当院のホームページから過去の放送分も視聴可能です。

過去の放送はこちらから

独立行政法人国立病院機構 京都医療センター
National Hospital Organization Kyoto Medical Center

発行元
ケーエムシーマガジン 第17号 2026年 Spring
独立行政法人国立病院機構 京都医療センター 広報戦略室
〒612-8555 京都市伏見区深草向畑町1-1　TEL：075-641-9161（代表）　FAX：075-643-4325

2026.04

KMC MAGAZINE

kyoto medical center

京都医療センター 広報誌［ケーエムシーマガジン］

2026 Spring　Volume 17

KMC REPORT

医療現場の最前線

脳神経外科、整形外科

新体制の診療科に迫る

特集

京都南部のがん医療を、診断から療養まで一貫して支える

地域がん診療連携拠点病院としての総合力

独立行政法人国立病院機構 京都医療センター

特 集

京都南部のがん医療を、診断から療養まで一貫して支える

～地域がん診療連携拠点病院としての総合力～

二人に一人ががんに罹患する時代となり、医療機関においてがん診療の重要性はますます高まっています。また、分子標的治療薬や免疫チェックポイント阻害薬の登場により治療法が大きく様変わりし、多診療科・多職種が連携して、安全で質の高い診療を提供することがさらに求められています。

京都医療センターでは、こうしたニーズに応えるため院内がんセンターを設置し、手術・化学治療・放射線治療・緩和ケアを「がん診療の4本柱」として、病期、患者さんの状態、併存疾患などを踏まえながら、治療方針を検討しています。療養上の不安や仕事・経済面を含む生活上の相談にはがん相談支援センターが、症状緩和や終末期を含む支援には多職種で構成された緩和ケアチームが対応いたします。さらに、39診療科を有する総合病院として、がん治療に伴う合併症や併存疾患にも、各診療科が密に連携して対応いたします。



がんセンター長
呼吸器外科診療科長
肺がんユニット長
呼吸器センター長
澤井 聡

手術

2台体制で進化するロボット手術と総合力で支える手術治療

当院では、手術支援ロボット「ダ・ビンチ」を2台体制で運用し、泌尿器科・外科・婦人科・呼吸器外科・耳鼻咽喉科・頭頸部外科の各分野において、より多くの患者さんに低侵襲で精密かつ安定した手術を提供できるようになりました。従来からの強みである腹腔鏡手術とあわせ、術後の早期回復やQOLの維持、さらにはがん治療の予後の改善にもつながることを目指しています。

また、複数の臓器に腫瘍が広がる進行がんに対しては、外科・婦人科・泌尿器科や頭頸部外科・形成外科・脳外科など複数の診療科が連携し、安全に拡大手術を実施しています。

近年は、化学療法や放射線療法の進歩により、これまで手術が困難とされていた症例でも、治療経過の中で手術が可能となるケースが増えています。当院では、患者さん一人ひとりに最適な治療のタイミングを見極め、適切に手術へつなげています。

さらに、高齢の方や基礎疾患をお持ちの方に対しても、総合病院の強みを生かした多職種連携による安全な周術期管理を行い、安心して手術を受けていただける体制を整えています。

放射線治療

幅広い患者層に対応できる高精度放射線治療棟

放射線治療は、がん治療における重要な治療法の一つです。当院では、より高精度な放射線治療機器を導入し、ほぼ全例に画像誘導放射線治療（IGRT）を実施することで、腫瘍への線量増加と腫瘍周囲の余白減少で、治療成績の向上と副作用の低減を両立しています。さらに、強度変調放射線治療（IMRT）や体幹部定位放射線治療にも積極的に取り組み、初回治療のみならず、進行期や再発・転移症例にも対応しています。

こうした、機器の高精度化により、照射技術面では高い品質保証・品質管理が、また看護面では治療を受けるがん患者さんへの専門的なケアが、これまで以上に求められています。当科では、放射線治療専門技師やがん放射線療法看護認定看護師など、専門資格を有する多職種のスタッフが連携して対応しています。

また、複数の診療科による毎週の合同カンファレンスや原発臓器横断的な骨転移カンファレンスも放射線治療科が主導して定期的に開催し、患者さん一人ひとりに適した治療方針を検討しています。



化学治療

最新のがん薬物療法をあなたのもとへ届けます ― 悪性腫瘍に対する薬物療法のご紹介 ―

当院は京都府の地域がん診療連携拠点病院として、すべての悪性腫瘍を対象とした包括的な薬物療法を提供しています。

薬物療法では、細胞障害性抗がん薬・ホルモン製剤・分子標的薬に加え、免疫チェックポイント阻害薬、近年急速に普及が進む抗体薬物複合体（ADC）や二重特異性抗体（Bispecific抗体）など、最新の治療薬にも対応しています。対象疾患は特定の臓器・部位に限定されず、消化器・呼吸器・乳腺・泌尿器・婦人科・血液腫瘍など幅広い領域にわたる臓器横断的な薬物療法も可能です。また、39診療科を有する総合病院として、合併症や併存疾患にも包括的に対応し、外来化学療法センターでは、医師・薬剤師・看護師・管理栄養士など多職種チームが連携して、安全で質の高い治療を行っています。

悪性腫瘍の薬物療法に関するご紹介・ご相談は、地域医療連携室にて承っております。治療方針のご相談のみでも歓迎しておりますので、どうぞお気軽にご連絡・ご紹介くださいますようお願い申し上げます。

緩和ケア

緩和ケアはすべてのがん患者さんが対象です。

「緩和ケア」と聞いてどのようなイメージをお持ちでしょうか。緩和ケアは、がんの終末期だけに行うものではなく、現在はより守備範囲が広がり、がん以外の病気も含め、病気のどの時期にも患者さんのお役に立つことができます。

緩和ケアは専門家のみが提供する特殊な技術ではなく、すべての医療者が共有すべき「考え方」とも言えます。患者さんの苦痛を身体面だけでなく精神面や社会面などを含む全人的苦痛として捉え、早期に問題を見出し、和らげることで、患者さんとご家族の生活の質の向上を目指しています。

基本的な緩和ケアで対応が難しい場合には、より専門的なサポートが重要となります。当院では、専門性を有する医師・看護師をはじめ、多職種が連携し、外来・入院を問わず支援を行っています。一般病棟では多職種からなる緩和ケアチームがサポートし、重点的な緩和ケアを必要とする方には緩和ケア病棟にて対応しています。

KMC MAGAZINE［ケーエムシーマガジン］

地域の先生方へ ｜ 京都医療センター「がん患者支援」のご案内

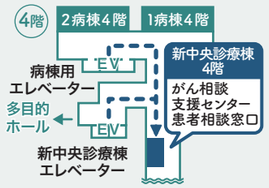
京都医療センターでは、治療提供に加えて、患者さん・ご家族が抱えやすい「つらさ」「不安」「生活課題」「外見の変化」「治療選択の迷い」を、多職種で支える体制を整えています。お困りの患者さんがいらっしゃいましたら、外来でのフォローや療養相談の場面で、必要に応じて当院の支援窓口をご紹介ください。

1 「まずはどうすればいい？」を相談できる窓口
がん相談支援センター

「がん相談支援センター」は、「がん療養中の困りごとを相談したい」「がんの治療費のことを知りたい」「どこに相談すればよいか分からない」といったケースの相談窓口です。
医療ソーシャルワーカー※や看護師が、皆様のお話を伺い一緒に考え問題解決のお手伝いをいたします。外来通院中の方だけでなく、通院されていない地域の方々などなたでもご相談いただけます。ご相談は、対面や電話でも可能です。予約不要のため、ご相談者さんのタイミングでご利用いただけます。

治療中の不安、ご家族の悩み、療養上の困りごと（仕事・経済面・制度等）を相談できる窓口として患者さんへご紹介ください。

※医療ソーシャルワーカーとは、病気やケガによって生じる生活上の不安や問題に対して、患者さんやご家族を支援する専門職です。安心して治療や療養ができる様に、社会的・心理的な面からサポートしています。



対　象　患者さん、ご家族、地域の医療機関等の方
対応時間　8:30～17:15（土日祝を除く）
場　所　新中央診療棟4階　10:30～12:30
（上記時間以外は外来棟3階地域医療連携室に在室）
備　考　予約必須ではありませんが、状況により待ち時間が発生する場合があります
連絡先　075-641-9161（代表）
「がん相談支援センター」まで

2 交流・語り合い・ピアサポートで、療養生活に寄り添う場
がん患者サロン「うづら」

京都医療センターの「がん患者サロン うづら」は、がん患者さん・ご家族・ご遺族のための交流の場です。がんの治療中は情報過多や孤立感が患者さんやご家族の負担になることがあります。そこで、「がん患者サロン うづら」では不安な気持ちをお話ししていただく場や相談する場をご提供しています。

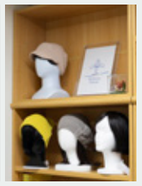
治療や生活の中で感じる不安、迷い、思いを言葉にし、同じ体験をもつ方同士で交流することで、気持ちが軽くなったり、療養生活のヒントを得られたりすることがあります。診療の場では話しきれない気持ちを整理する機会としても活用されています。また、午後からは外科の専門医も参加するため、医療に関する専門的な質問にも対応可能です。

予約は不要で、1回のみの参加や途中参加・途中退出も可能です。患者さんへの心理的・社会的支援の案内先として、ぜひご活用ください。

対　象　患者さん、ご家族
時　間　毎週金曜日 10:00～15:00
（土日祝を除く）
場　所　新中央診療棟3階と病棟の渡り廊下スペース
（旧レンタルサービス横）
備　考　予約不要
（1回のみ参加、途中参加・途中退出も可）

3 情報・相談・ケア体験で、がん患者さんの「治療と生活」をつなぐ場
リボンズハウス





京都医療センターの「リボンズハウス」は、がん患者さんとご家族の療養生活を支えるアピアランスケア（がん患者さんの外見の変化に対するケア）を行っています。がんに関する情報収集や図書閲覧、ウィッグ・帽子の展示、各種相談などを通じて、治療と日常生活の間にある不安や困りごとに寄り添います。外来診療の限られた時間の中では十分に対応できない、外見変化へのケアや療養生活の支援、気持ちの整理といった個別のご相談に対応しています。また、外来化学療法センターや相談支援センターとの連携も行い横断的に患者さんをサポートいたします。病診連携においても、患者さん・ご家族の生活面を支える案内先としてご利用ください。

対　象　患者さん、ご家族
時　間　10:00～14:00（土日祝を除く）
※8:30～10:00及び14:00～16:30 は閲覧のみ可能
場　所　外来管理診療棟3階 がん情報センター内
連絡先　075-641-9161（代表）
「リボンズハウス」まで

4 地域の医療機関とともに、がん看護の質向上をめざす相談支援
がん看護相談窓口 ※医療関係者用



京都医療センターの「がん看護相談窓口」は、地域がん診療連携拠点病院としての役割の一環として、医療関係者向けに設けられた相談窓口です。

地域の医療機関と連携し、日々の実践現場で生じる問題や、がん看護に関する悩み・困りごとをともに考え、患者さん・ご家族への「がん看護」の質向上をめざすことを目的としています。相談には、がん薬物療法看護認定看護師、がん放射線療法看護認定看護師、乳がん看護認定看護師、がん性疼痛看護認定看護師、緩和ケア認定看護師など、がん看護分野の専門的知識・技術をもつ看護師が対応します。がん看護実践、症状緩和（全人的苦痛・治療による副作用）、がん分野のスタッフ教育に関する相談など、地域連携の実務を支える窓口として、ご活用ください。

対　象　医療関係者
窓　口　ご相談は右記「がん看護相談依頼フォーム」にご入力ください。後日担当者よりご連絡いたします。
なお、お急ぎの場合は下記の時間帯に075-641-9161（代表）までお問い合せください。
時　間　平日 10:00～16:00（土日祝を除く）

KMC MAGAZINE［ケーエムシーマガジン］

KMC REPORT 医療現場の最前線

京都医療センター 診療科・部門のご紹介
毎号、当院の診療科・部門を取り上げ、
『取り組みや実績、特長など』をお伝えします。

脳神経外科

脳神経外科では、2026年4月より山尾診療科長による新体制が始動。これまで注力してきた“断らない脳卒中診療”を継承しつつ、低侵襲手術の推進と、予防手術から緊急治療までを担う切れ目のない診療体制の強化を図り、さらなる医療の質向上を目指す。

診療科 ご案内

充実の体制で“断らない脳卒中診療”の方針のもと受け入れ体制を強化

難度の高い緊急治療にも24時間体制で対応

2026年度から脳神経外科の診療科長を務めさせていただくことになりました、山尾と申します。当科では前任の診療科長である福田の診療方針を受け継ぎ、“断らない脳卒中診療”をさらに推進してまいります。

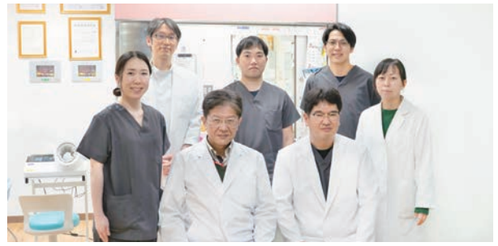
当院は京都府内に6施設しかない救命救急センターであり、日本脳卒中学会の認定を受けた一次脳卒中センター（PSC）コア施設でもあります。脳卒中や頭部外傷などの救急疾患に24時間対応するとともに、難度の高い治療も実施できる体制を整えています。最新の器具（フローダイバーター、W-EB）を用いたカテーテル治療を導入し、これまで治療が難しかった大型脳動脈瘤、分岐部動脈瘤にも対応しています。こうした特徴を活かして、これまで以上に患者さんを積極的に受け入れていきたいと考えています。

当科では、脳神経内科医師とも協力し、急性期脳梗塞に対して機械的血栓回収術や血栓溶解薬（rt-PA）による点滴治療を24時間実施できるほか、くも膜下出血や脳出血に対する開頭手術およびカテーテル治療も常時行える体制をとっております。さらに、脳ドックなどで指摘された未破裂脳動脈瘤や頚動脈狭窄症など脳卒中発症前の予防治療にも力を入れております。また、脳腫瘍手術の実績も多く積み重ねてきており、京都府内でも少ない、化学療法や放射線治療を組み合わせた集学的治療が行える点も大きな強みです。

低侵襲治療に注力し、術後の早期回復を目指す

神経内視鏡手術やカテーテル治療をはじめとする低侵襲治療にも力を入れており、患者さんの身体的負担を軽減することで、術後のADL・QOLの早期回復、退院につなげています。こうした診療を実践するためには、チーム医療が欠かせません。脳神経センターとして、脳神経外科、脳神経内科の専門医の連携をはじめ、多職種が緊密に連携することで、予防から治療、リハビリテーションまで切れ目のない診療を行っています。

脳卒中の一次・二次予防には、高血圧をはじめとする動脈硬化の危険因子の管理が重要であり、地域の先生方との連携が不可欠です。そのため情報共有を密に行うほか、MRIやCTの画像検査は当院で担当し、日常の診療はかかりつけの先生方にお願いするなど、柔軟に対応していきたいと考えております。今後も地域の先生方との連携を一層深め、診療体制の充実に努めてまいります。





脳神経外科 診療科長
山尾 幸広（やまお ゆきひろ）

脳梗塞は“発症超急性期”に治療すれば、”治る”可能性のある病気となりました。気になる症状の患者さんがおられましたら、「脳卒中ホットライン075-606-2192）」へすぐにご連絡ください。最新治療に関してもお気軽にお問い合わせください。

整形外科

2026年4月、新体制となった整形外科。人工関節手術、脊椎手術、外傷手術を柱とするこれまでの診療方針を受け継ぎつつ、新しい治療法を導入し、より質の高い医療の提供を目指す。次代を担う若手医師も加わり、さらなる充実を見据えた体制へと歩みを進めている。

診療科 ご案内

新体制がスタート 地域のニーズに応える診療を

精度と安全性に加え、個別性を重視した人工関節手術



この春より診療科長を拝命いたしました向井です。当科は地域医療を支える整形外科として幅広い診療を担い、特に人工関節手術や脊椎手術、外傷手術を数多く手掛けることで、着実に実績を積み重ねてきました。今後もこの方針を継続し、地域のニーズに的確に応える診療を展開してまいります。

当科では、股関節・膝関節・肩の障害に対して、将来を見据えた治療選択を大切にしています。まずは関節機能の維持を目指し、できる限り患者さんご自身の骨を残す関節温存手術に取り組み、必要に応じて人工関節手術を提案しています。治療にあたっては、患者さんの病状やご希望を踏まえ、十分に理解・納得していただいたうえで手術を行うことを原則としています。さらに、ナビゲーションやロボティックアームなどのコンピュータ支援手術も一部導入し、精度と安全性の向上を図っています。また、股関節の人工関節手術では前方アプローチを採用するなど低侵襲化にも努めています。人工関節手術は高齢の患者さんが中心ですが、年齢のみで判断することはありません。手術の適応があり、ご本人が希望される場合には積極的に実施し、症状の改善とQOLの維持・向上を目指します。

幅広く専門性を備えた脊椎手術と外傷治療

脊椎外科では、首や腰の変形、歩行障害、神経痛などの症状に対する専門的な手術を行っています。大きな特長は、リアルタイム3次元CTやナビゲーションを備えたハイブリッド手術室を有している点です。術中に高精細な立体画像を確認できるため、椎弓根スクリューの挿入精度を高めることができます。これにより手術時間の短縮や患者さんの身体的負担の軽減を図るとともに、複雑な脊椎手術をより安全に行うことが可能です。

外傷手術の件数も多く、緊急手術にも対応できるよう体制整備に努めています。骨だけでなく皮膚や筋肉などの損傷を伴う複雑な症例、小児の緊急手術にも対応しています。なかでも大腿骨近位部骨折は、高齢で骨粗鬆症のある方に生じやすく、当科でも手術件数の多い疾患のひとつです。歩行能力の低下を防ぐためには早期の手術と術後の適切なリハビリテーションが重要でありますが、1年以内に反対側を受傷する確率が高くその予防には骨粗鬆症の継続的な治療が欠かせません。そのためにはかかりつけの先生方との連携が欠かせませんので、丁寧な情報共有はもちろん、できる限り顔の見える関係構築に努め、連携強化を図っていきたいと考えています。



整形外科 診療科長
向井 章悟（むかい しょうご）

関節の変形や麻痺などの神経症状は、進行してからの手術では十分な効果が得られにくいため、兆候が見られた段階でご相談・ご紹介いただけますと幸いです。術後のリハビリや継続的な保存療法をお願いすることもあるかと存じますが、何卒よろしくお願いいたします。

INFORMATION 01　京都医療センター附属 京都看護助産学校での研究活動



京都医療センターには附属の京都看護助産学校が併設されており、その歴史は古く、設立は終戦後間もない1949年に遡ります。2004年には周辺の国立病院附属看護学校を併合し、現在の形態となりました。将来第一線で活躍する優秀な看護師を育成するとともに、よりよい教育方法の開発に積極的に取り組んでおり、研究活動も非常に盛んです。

2025度も国立病院総合医学会において数多くの研究発表を行い、なかでも太田恵子教員が「看護学生の血管選定技術における血管可視化装置を用いた学習効果」により、ベストポスター賞を受賞しました。

太田教員からのコメント



国立病院総合医学会では、ベストポスター賞をいただき、大変光栄に思っております。本研究は、看護学生が血管選定技術を習得できる教育方法を検討することを目的に取り組みました。血管可視化装置を活用した学習は、血管走行の視認性を高め、学生の理解に有効である可能性が示唆されました。

本研究は、日頃から学生指導に携わる看護教員が意見を出し合い、協働しながら進めてきた成果です。また、研究計画の立案において、臨床研究センター支援事務局から多大なご支援をいただき、実現できました。心より感謝申し上げます。

今後も教員一同で教育研究を継続し、臨床現場で活躍できる質の高い看護師育成に貢献してまいります。

臨床研究センター支援事務局では、院内のさまざまな研究の推進をお手伝いしています。研究内容にご興味のある方は、是非お声がけください。

【臨床研究センター支援事務局 連絡先】　075-641-9161（病院代表）　臨床研究センター長 八十田まで

INFORMATION 02　「ミニうづらだより」設置ご協力のお願い

京都医療センターでは、患者さんにがんについて分かりやすい情報提供を行うことを目的として、乳がん・肺がん・大腸がん・甲状腺がんに関するミニパンフレットを作成しております。がんは早期発見・早期治療が重要であり、地域の皆さまに 正しい知識を広く届けていければと考えております。

つきましては、待合室や受付などに本パンフレットを設置していただける協力先を募集しております。パンフレットは専用の4段ラックとともにお届けいたしますので、省スペースで見やすく配置していただけます。患者さんへの情報提供の一助として、ご活用いただけましたら幸いです。





お申し込み

お申し込みは下記のQRコードより承っております。
ぜひとも地域の皆さまと一緒に、がん予防と早期発見の啓発活動を進めてまいりたいと存じます。先生方のご協力を心よりお願い申し上げます。

先進医療部

未来の治療を、いま選択肢に

がんセンター副センター長/呼吸器内科医長　藤田 浩平
医事管理部長/呼吸器内科診療科長　谷澤 公伸

京都医療センター呼吸器内科では、呼吸器疾患領域における多様な臨床試験（治験）を継続的に実施しており、国内でも有数の症例集積と実施体制を有する施設の一つです。対象は肺がんにとどまらず、ウイルス性呼吸器感染症、COPD、気管支喘息、肺非結核性抗酸菌症、気管支拡張症など、幅広い呼吸器疾患に及びます。ここでは当科で実施中の治験の一部をご紹介します。

1. 肺がん（非小細胞肺がん／小細胞肺がん）

免疫チェックポイント阻害薬（ICI）の登場以降、肺がん薬物療法は大きく進歩しました。現在も同等以上のインパクトを目指した新規薬剤開発が急速に進んでおり、当科ではその開発初期～検証段階にあたる治験にも積極的に参画しています。特に、腫瘍抗原を標的とし薬剤送達を最適化する抗体薬物複合体（ADC）や、複数抗原を標的として薬理作用を高める二重特異性抗体（BiTE等）など、次世代モダリティを用いた臨床試験を実施しています。具体例として、Integrin-beta-6を標的とする　Sigvotatug＋vedotin（Be6A Lung-02 試験）、PD-L1を標的とするPD-L1抗体＋vedotin（C5851005　試験）など、いずれも新規ADCを用いた治験を実施しています。

2. ウイルス性呼吸器感染症（TILIA 試験）

ウイルス性呼吸器感染症では、病態により過剰炎症（いわゆるサイトカインストーム）が重篤な呼吸不全を惹起し得る点が重要課題です。炎症惹起に関与するサイトカインの一つである IL-33 を標的とした IL-33 抗体（tozorakimab）を用い、入院を要する呼吸不全を伴う症例に対して、早期介入による重症化抑制効果が期待される試験に参加しています。当院は2026年1月末時点で 33 例の投与実績があります。

3. COPD（ALNASA 試験／MIRANDA 試験）

COPD 治療は従来の吸入治療を基盤としつつ、中等症～重症患者を対象に生物学的製剤の開発・導入が進んでいます。当科では、気道上皮由来の炎症経路に関与する IL-33 を標的とした治験に参画し、tozorakimab および astegolimab の 2 薬剤の試験を実施しています。当院では astegolimabの試験において一定数の症例登録実績があります。

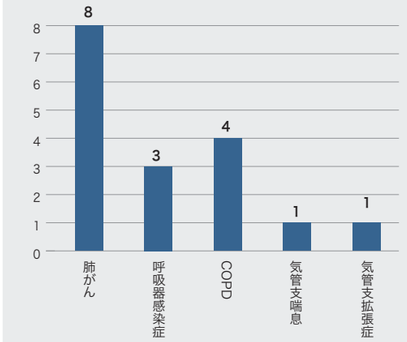
4. 気管支喘息（DRI16762 試験）

気管支喘息領域では既に複数の生物学的製剤が臨床導入されていますが、さらなる治療最適化を目指し、TSLPと IL-13 を同時に阻害する抗TSLP/IL-13 nanobody抗体（lunsekimig）を用いた治験を実施しています。本試験は国内でも実施施設が限られており、当科はその実施拠点の一つです。

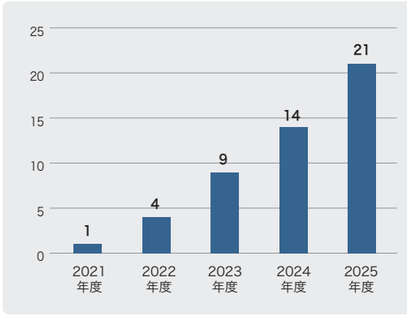
治験実施体制について

当科では、直近3年間で治験受託件数が増加しており、依頼は年々拡大しています。疾患領域横断での経験蓄積と症例集積力を背景に、適格症例の迅速な登録、適切な安全性評価、品質の高いデータ創出に貢献します。

治験受託件（直近3年・中止も含む）



治験受託件数



CloseUp

認定看護師

本コーナーでは、専門的な知識と高い技術を持つ「認定看護師」の専門分野や日々の活動をご紹介します。各分野のエキスパートとして、患者さんやご家族に寄り添いながら取り組む姿をお伝えします。

院内デイケアの取組み

認知症看護認定看護師 兼田 浩美

老人看護専門看護師 落合 恵



当院の入院患者さんの平均年齢は約70歳で、入院患者さんの大半を高齢者が占めています。高齢の患者さんは、身体疾患の治療に加えて、認知機能低下やせん妄、精神面の不安定さを併発しやすく、より包括的な支援が求められます。そこで当院では、認知症ケアチームと精神科リエゾンチームが連携し、高齢の患者さんへの支援体制を整備しています。

こうした取り組みの一環として、2025年10月より、認知症・せん妄予防リンクナース会が中心となり、音楽療法士やリハビリテーション科の協力を得ながら、主治医の許可のもと高齢者および認知症のある入院患者さんを対象とした院内デイケアを月2回開催しており、1回あたり10～20名程度の入院患者さんにご参加いただいています。



院内デイケアでは、「秋の運動会」「クリスマス会」「お正月」など季節を感じられるテーマを設定し、治療を受けながらも、少しでも心地よく豊かな時間をお過ごしいただけるよう工夫しています。高齢者や認知症のある患者さんにとって、季節感のある体験や日中の活動は、見当識の維持や情緒の安定につながる重要な要素と考えています。

地域では介護保険を利用してデイケアに通所されている方も多くいらっしゃいますが、入院中はそうした機会が限られます。当院の院内デイケアは月2回と限られた開催ではあるものの、病棟での療養生活が続くなかで、ベッドを離れて他の患者さんと交流する機会を持つことで、普段の病棟生活では見られない生き生きとした表情や穏やかな笑顔を多く拝見しています。このような関わりは、せん妄予防やBPSD（行動・心理症状）の軽減、さらには病棟全体のケアの質向上を通じて、患者さんのQOL向上につながると考えています。

今後も当院では、多職種が連携しながら、高齢者・認知症患者さんの尊厳を大切にし、院内デイケア等の取り組みにより廃用を予防しつつ、急性期治療後に地域へ円滑に移行できるよう、地域医療との連携に努めてまいります。





私のオフタイム —Off Time—

京都医療センターのスタッフの「オフタイム」にクローズアップ。
日々、診療・看護・研究といった業務に励む一方で、
休日には趣味や特技に打ち込む姿や今のマイブームなど、
一個人としての魅力や意外な一面をお届けいたします。



広報戦略部長
産婦人科診療科長 **濵西 潤三**

Q なぜ医師に？

「途上国の難民キャンプの報道を見て」A

小学3年生の時に、途上国の難民キャンプの報道をテレビで見て、助けたいと思ったのがきっかけでした。その後、産婦人科医の父の背中を見て、同じ産婦人科医の道に進みました。

Q 好きな本は？

「三国志」「フェルメール 光の王国」「パルモア病院日記」 A

1 **「三国志」**吉川英治著：幼少期からの英雄への憧れと悲哀に心打たれています。

2 **「フェルメール 光の王国」**福岡伸一著：絵画（光と影）への科学的洞察と解説から洋画鑑賞が好きになりました。

3 **「パルモア病院日記」**中平邦彦著：周産期医療黎明期に手探りで新生児医療の基礎を築き上げたパイオニアの苦闘と情熱の記録で、私もこの病院で生まれ感銘を受け、産科医療に興味をもちました。

Q 趣味は？

「歴史探訪」 A

50歳を機に突然目覚めました。京都には隠れた史跡が数多くあり、休日はワクワクしながら巡っています。ちなみに京都医療センターの近くにも、藤森神社、明治天皇陵、西岸寺など、落ち着いた名所がたくさんあります。また、学会に出張した際にも、短い空き時間を見つけて名所や旧跡を訪れるようになりました。国内のマイベスト3は、中尊寺、熊本城、東照宮です。海外では、トプカプ宮殿（トルコ）、サン・ピエトロ大聖堂（バチカン）、ドゥブロヴニク旧市街（クロアチア）です。



Q 座右の銘や大切にしている言葉は？

「一期一会」と「塞翁が馬」 A

外来に来られる患者さんにとって、病気になることは決して良いことではありません。しかし、ご紹介元の先生方や私たちとの出会い、そして治療を通じて体調が良くなり、健康の大切さをより実感していただけるよう尽力したいと思っています。

Q 休日の過ごし方は？

「家族とのドライブ」 A

月に1度は大原朝市へ出かけ、つきたてのお餅と、お漬物屋さんのしそソフトを楽しんでいます。ときどき舞鶴や若狭へ、家族と一緒に魚を食べに出かけることもあります。